

## 第72回全国学校給食研究協議大会第4回実行委員会議事録

日時：令和4年2月16日（水） 13:30～14:30

場所：道庁別館7階 教育委員会室

出席者及び欠席者

北海道教育委員会教育長	倉本博史
札幌市教育委員会教育長	檜田英樹(オンライン出席)
北海道学校給食研究協議会会長	高森裕司(オンライン出席)
公益財団法人北海道学校給食会理事長	千葉俊文(オンライン出席)
北海道小学校長会会長	吉田信興(オンライン出席)
北海道中学校長会会長	三浦利章(オンライン出席)
北海道特別支援学校長会会長	友善学(オンライン出席)
北海道PTA連合会会長	菊川哲平(欠席)
北海道学校栄養士協議会会長	小野寺由希恵(オンライン出席)
北海道教育庁学校教育局指導担当局長	中澤美明
札幌市教育委員会学校施設担当部長	松原和幸(オンライン出席)

運営者

北海道教育庁学校教育局健康・体育課課長	泉野将司
北海道教育庁学校教育局健康・体育課課長補佐	糸畑啓
北海道教育庁学校教育局健康・体育課課長補佐	山際昌枝
北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食振興係係長	長岡敬一
北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食振興係主任	福岡一輝
北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食振興係主事	一條智明
北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食指導係指導主事	高橋明子(欠席)
北海道教育庁学校教育局健康・体育課学校給食指導係指導主事	三好明子(欠席)

### 1 開会

#### ○ 泉野事務局長

ただ今から、「第72回全国学校給食研究協議大会第4回実行委員会」を開催いたします。

会議に入らせていただく前に、御報告いたします。

実行委員会会則第8条第5項に、「会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

ただし、代理者を定めたとき又は委任状により意志を表示したものは出席とみなす。」と規定されています。

本日、会場には委員2名、リモートで8名の出席をいただいておりますので、本会議が成立しておりますことを報告いたします。

本会議は、お手元の次第に沿って進めてまいります。第1号議案から第3号議案を配布させていただいておりますので、資料の確認をお願いします。

それでは、開会に当たり、委員長である北海道教育委員会倉本教育長から御挨拶いただきます。

## 2 挨拶

### ○ 倉本教育長

第72回全国学校給食研究協議大会北海道大会第4回実行委員会の開催に当たりまして、一言、御挨拶を申し上げます。

本日は、御多用の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には、日頃から学校給食の充実・発展並びに食育の推進に、御尽力をいただき、改めて感謝申し上げます。

さて、昨年10月21日、22日の2日間、本道札幌市で開催いたしました、「第72回全国学校給食研究協議大会」は、新型コロナウイルスの感染症対策を講じながら、初めてのオンライン開催となりましたが、全国から多くの学校給食関係者の参加をいただき、成功裏に大会を終了することができました。

後ほど、事務局から事業報告がありますが、第1日目の全体会では、文部科学大臣表彰表彰式、文部科学省説明、シンポジウムを行い、学校における食育を推進する上で、重要な役割を担う学校給食の在り方について、最新の情報を共有するとともに、現状や課題を協議したほか、北海道の学校給食や食育の取組について、全国に発信することができました。

また、2日目には、学校給食を活用した食育の充実などにつきまして、8つの分科会を設定し、各研究主題に沿って、有意義な研究協議が行われました。

今大会が今後の学校・家庭・地域が一体となった食育の一層充実した取組につながるものと確信しております。

多くの成果を残し、本大会を終了することができたのもひとえに実行委員や運営委員の皆様をはじめ、大会に関わった全ての関係者の皆様の御理解、御協力の賜と深く感謝申し上げます。

結びになりますが、委員の皆様には、引き続き学校給食の発展・充実並びに食育の推進にお力添えをお願い申し上げますとともに、本日は今大会最後の実行委員会となりますので、忌憚のない御意見を賜りますよう、お願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### ○ 泉野事務局長

ありがとうございました。本会議の議長は、実行委員会会則第8条第4項により、委員長である倉本教育長、よろしく願いいたします。

## 3 議案説明①

### ○ 倉本教育長

それでは、議長を務めさせていただきます。皆様方の御協力をお願いいたします。次に、次第の3の議事に入ります。

まず、第1号議案「第72回全国学校給食研究協議大会（北海道大会）事業報（案）」について、実行委員会会則第8条第3項第1号の規定により、実行委員会で審議し決定することとなっておりますので、事務局から説明願います。

### ○ 泉野事務局長

第1号議案、資料2ページを御覧ください。昨年度の準備委員会、今年度の実行委員会、運営委員会などについて、事業報告（案）として一覧にまとめております。主な事業について説明させていた

だきます。

昨年度、令和2年度につきましては、準備委員会として、大会に係る事業計画や役員等の決定の他、オンライン開催のための業者の選定、大会の具体的な内容等について、協議いたしました。

次に、令和3年度ですが、4月23日に実行委員会を設立し、第1回会議として、実行委員会会則や開催要項や事業計画、収支予算などを協議いたしました。

5月17日に第1回運営委員会を開催し、実行委員会での決定事項の共有、具体的な大会運営に係る部会の業務等について協議しました。

この後大会までに、展示・弁当部会など各部会ごとの会議等を数回開催し、準備を行いました。

6月30日の第2回実行委員会は、書面で開催し、実行委員名簿を改訂するとともに、シンポジウムや、オンライン開催運営業務委託の契約等について、御意見等をいただきました。

次の3ページを御覧ください。7月27日には、大会の開催案内を各都道府県教育委員会、道内各市町村教育委員会、関係団体等に発出しました。

8月25日には、大会前最後の第3回実行委員会を開催し、会場となるホテルライフオーソ札幌との会場借上契約についての審議、大会準備の進捗状況等について協議しました。

10月5日には、大会前最後の第3回運営委員会を開催し、大会での各部会の進捗状況等の確認、当日の運営委員の役割分担や動向について、協議、確認を行いました。

10月20日の大会前日には、会場であるホテルライフオーソ札幌において、事前準備、各会場におけるセッティング、WEB業者との運営最終打合せ、配信映像のシミュレーション、進行要領に沿って当日のリハーサル等を行いました。

大会当日の10月21日、22日の報告については、この後、4ページからの実施概要に沿って御説明いたしますが、大会終了後の11月1日から12月26日までは、YouTubeによる見逃し配信を行ったところでございます。

資料4ページを御覧ください。大会の実施概要について、説明させていただきます。

1 趣旨、2 主題、3 主催、4 後援、5 期日、6 会場、7 開催方法は、記載のとおりです。

8 参加者総数は、道内447名、道外783名の計1,230名でした。

9 概要について、大会1日目の全体会では、文部科学大臣表彰が行われました。

全国の受賞者を代表して、学校給食の実施に関し、特に功績があった学校給食功労者として、北海道札幌視覚支援学校元栄養教諭門馬則子さんが文部科学省健康教育・食育課三木課長から表彰状を授与されました。

続いて、文部科学省三木課長から、「学校における食育の推進及び学校給食の充実」と題しまして、「新型コロナウイルスの感染症の感染状況」「食育推進基本計画」「栄養教諭を中核とした食育の推進」「学校給食における適切な衛生管理」「学校給食実施基準等の一部改正」「学校給食費の公会計化」などについて、説明がありました。

資料5ページを御覧ください。続いて、「日常生活の食事」に生きる学校給食～教材となる「おいしい」給食の実践と発信～をテーマに、キーノート・スピーチ形式によるシンポジウムが行われました。

はじめに、文部科学省 齋藤るみ学校給食調査官から、学校給食に求められる役割と、学校給食の現状と課題について、テーマに基づく提言がなされ、この提言を受けて、コーディネーターの文部科

学省 清久食育調査官の進行で、全国学校栄養士協議会 長島美保子会長、札幌市立円山小学校 森田智也 校長、西興部村立西興部小学校 小西千鶴栄養教諭、北海道PTA連合会 街道美恵副会長、北海道教育庁 中澤美明指導担当局長をシンポジストとして、2つの論点について、議論するシンポジウムが行われました。

学校給食を通じてどういう子どもを育成したいのか、学校給食の発信などの課題に対して何ができそうかについて、課題等を共有しながら、コーディネーターの巧みな進行により、シンポジストの本音を引き出すことによって、学校給食をいかに日常生活の実践に生かすことができるか、子どもたちの食に関する自己管理能力を育成することができたかなど、学校給食の役割や在り方を確認し、参加者とも共通理解を図ることができました。

6ページを御覧ください。大会2日目は、学校給食・食育の課題解決を図る分科会が行われました。8分科会の主題、参加数、研究協議の内容について、一覧表にまとめています。分科会では、それぞれ3本の研究発表があり、全ての分科会において、北海道の発表が行われました。

発表後は、各会場と接続した参加者による研究協議が行われ、チャット機能等を活用しながら進行し、各県の取組や課題、今後の展望など情報共有することができました。

一方で、集合の開催のように協議が深まらず、配信元の発表者と指導助言者中心で、協議が難航した分科会もあり、この点についてはオンライン開催による協議の方法などに課題を残したとも言えます。

今後の各学校における取組の参考になる事例が数多く紹介され、まとめとして指導助言者の講義等もあり、さらには、大会終了後のオンデマンド配信により全ての分科会に参加が可能となったことは、参加者にとって大変有益であったと考えています。

7ページを御覧ください。同じく大会2日目、分科会の指導助言者、発表者、会場運営関係者に対して、オリジナル弁当を提供しました。

弁当の開発に当たっては、北海道の豊かな農畜産物、水産物などの食材を使い、今ある北海道の食文化を受け継ぐとともに、「全ての人に健康と福祉を」「つくる責任・使う責任」などのSDGsの視点を踏まえながら、子どもたちの明るい未来を創造するということをコンセプトに協賛企業の協力のもと、弁当部会の栄養教諭が考案し、弁当には、『どさんこ創造弁当』～歴史から学び、明るい未来～とネーミングして提供しました。

このお弁当は、本来、集合開催であれば、分科会参加の希望者に提供されるものでしたが、大会誌への掲載や、受付や休憩時間などを活用したプレゼンテーションの配信を通じて、全国に北海道からのメッセージを届けることができました。

本大会は、オンラインで開催することになったため、協賛事業者の展示や栄養教諭等の取組を紹介するパネル展示を、参加者に見ていただくことができなくなりました。

そのため、第1日目、第2日目の大会両日、受付や休憩時間を利用して、協賛事業者のCMを配信、北海道学校給食研究協議会栄養部会の14支部で作成した各地域の特色ある学校給食及び食に関する指導の取組を紹介するプレゼンテーションを配信しました。

また、分科会の配信会場には協賛事業者の背面広告を作成し、設置しました。

運営委員会の各部会の様々な工夫によって、オンライン開催を生かした取組を行うことができ、学校給食関係の多くの企業から協賛を得ることができ、学校給食や食育に関する効果的な情報発信を

することができました。

また、栄養部会の取組を紹介する配信では、配置数全国一位を誇る栄養教諭等が中心となって、これまで取り組んできた地場産物を活用した食育など各管内の特色ある活動をベースにまとめ、配信するとともに、大会誌にも掲載できたことは、道内外からも大変好評の声を聞いています。

本大会は、初めて試みるオンライン開催の良さや課題を引き出すために、予報の発出や事前アンケートの実施により、参加予定者からの要望・意見を取り入れながら、2日間の日程や大会内容を検討し、約2か月に渡る見逃し配信期間を設けるなどを行ったことで、充実した内容となり、全国各地の参加者からの事後アンケートの回答や文部科学省・教育関係者から素晴らしい大会であったとの声をいただいています。

本道の参加者にとっても、先進的事例や最新情報を得ることができ、全国の参加者と意見や情報の交流を深めるよい機会となりました。

今後は、本大会の成果を生かし、次代を担う子どもたちの心と体を育む、学校給食の役割や在り方について、引き続き、学校給食に関わる関係者で共通理解していくとともに、我が国有数の食料供給地域と言われる本道の特色を生かし、安全・安全な学校給食を生きた教材として、学校・家庭・地域が連携・協働した食育の一層の充実に向けて取り組んでいきたいと考えております。

9ページから11ページには、大会の記録写真、13ページから18ページには、回収率1割未満ではありますが、事後アンケートの結果を掲載しておりますので、御覧ください。

事業報告（案）については以上です。御審議のほどよろしく申し上げます。

○ 倉本委員長

それでは、第1号議案についてお諮りします。御承認いただけますでしょうか。

○ 各委員

異議なし。

○ 倉本委員長

ありがとうございました。異議なしということですので、第1号議案については、原案のとおり承認とさせていただきます。

#### 4 議案説明②

○ 倉本委員長

続いて、第2号議案「第72回全国学校給食研究協議大会北海道実行委員会収支決算（案）」について、実行委員会会則第8条第3項第2号の規定により、実行委員会で審議し決定することとなっておりますので、事務局から説明願います。

○ 泉野事務局長

資料19ページを御覧ください。第2号議案、収支決算（案）について御説明します。まず、「収入の部」をご覧ください。「負担金・補助金」についてです。

まず、文部科学省からの額ですが、100万円前後で、必要額を国費から直接支出することとなっております。分科会の指導助言者の謝金・旅費や会場使用料として、102万7500円を支出したところです。

文部科学省以外の団体からの決算額は、予算額と同額となっております。

次に、「会費」についてです。大会参加費として、1人当たり3,000円と設定しました。道外参加者は、1,000人の見込みに対して、実績が783人、道内参加者は、500人の見込みに対して、実績が

447 人となり、予算対比では 81 万円の減額となりました。

次に、「協賛金等」についてです。協賛金の募集にあたっては、北海道学校給食会様に多大な御尽力、御協力をいただきました。ありがとうございました。協賛していただいた企業・団体数は、67 にのぼり、協賛金は予算額よりも 159 万円も多い、359 万となっております。

なお、北海道学校給食研究協議会様からも 10 万円をご提供いただいております、こちらに計上しております。

最後に「雑収入」です。大会誌の購入額を、1 冊当たり 1,500 円と設定し、予算では 100 冊分、15 万円の収入を見込んでおりましたが、実績が 679 冊分、101 万 8500 円となり、86 万 8500 円の増額となっております。その他、預金利息が 12 円となっております。

以上、「収入の部」の合計は、予算額 930 万円に対して、決算額 1097 万 6012 円で、167 万 6012 円の増額となっております。

次に、「支出の部」についてです。各項目の主な支出の内容については、備考欄に記載のとおりですが、決算額が予算額から大きく増減している項目について御説明します。

まず、「報償費」についてです。予算額から 25 万 6000 円の減です。これは、道の報酬単価とすることを予定していたところですが、文部科学省へ確認の上、前回大会と同額の報酬単価としたことによる減額です。

次に「旅費」についてです。予算額から約 32 万円の減です。これは、3 名の発表者の方が来札せず、オンラインにより参加したことなどによる減額です。

次に、「消耗品費」です。予算額から約 97 万円の増です。今回の第 72 回大会は、初めてのオンライン開催となり、集合開催であった前回大会までと比較して、大幅に減額した予算としていたところですが、結果として、集合形式と同様に必要となった経費等による増です。

例えば、ステージの演台横の花や、ステージ上部の「大会タイトル」「文部科学大臣表彰」の横看板などに使用しております。

次に、「印刷製本費」です。予算額から約 51 万円の増です。これは、大会冊子の印刷経費について、他県を参考とした予算に対し、道内における印刷単価が高かったことや、協賛業者を増やすための方策として、背面広告を作成したことなどによるものです。

次に、「役務費」です。予算額から約 28 万円の増です。

これは、大会冊子の送付数が、1,600 冊の想定から 1,900 冊を超える送付数となったことが主な要因です。

最後に、「使用料及び賃借料」です。予算額から約 54 万円の増です。これは、消耗品費と同様、集合開催であった前回大会までと比較して、大幅に減額した予算に対し、結果として、集合形式と同様に必要となった経費によるものと、オンラインで発表を行った方への対応として、前日に、会場に隣接した部屋を借り上げた費用などが要因となっております。

具体的には、前日に機材のセッティングが終了した後、本番と同様の機材を使用し、接続テストを兼ねた動画収録を行いました。収録した動画は、当日に通信不具合が生じた場合のいわゆる保険として確保したものです。

以上、「支出の部」の合計は、予算額 930 万円に対して、決算額 1097 万 6012 円で、167 万 6012 円の増額となっております。

従って、最終の差引残額は「0円」でございます。

次に、資料 20 ページを御覧ください。本大会に係る会計監査について、本年 1 月 21 日に 2 名の監事の方に実施していただき、適正に処理されていると認められたところです。

収支決算（案）についての説明は以上です。御審議のほど、よろしく申し上げます。

○ 倉本委員長

ただいまの説明に対して、御意見・御質問がございましたらお願いします。

○ 各委員

なし。

○ 倉本委員長

○ それでは、第 2 号議案についてお諮りします。御承認いただけますでしょうか。

○ 各委員

異議なし。

○ 倉本委員長

ありがとうございました。異議なしということですので、第 2 号議案については、原案のとおり承認とさせていただきます。

## 5 議案説明③

○ 倉本委員長

続いて、第 3 号議案「第 72 回全国学校給食研究大会北海道実行委員会の解散及び会則の廃止」について、実行委員会会則第 8 条第 3 項第 3 号の規定により、実行委員会で審議し決定することとなっておりますので、事務局から説明願います。

○ 泉野事務局長

資料 21 ページを御覧ください。第 3 号議案について御説明します。

実行委員会の解散につきましては、実行委員会の会則第 13 条に「委員長は、決算を審議する会議において、事業報告書及び決算見込資料を監査意見を添えて提出しなければならない。」「2 委員長は、全校の会議の終了後、速やかに出納その他の事務を終了させ、決算書を委員に送付しなければならない。」「3 実行委員会は、前 2 項の事務をもって解散する。」と規定されております。

先ほど、説明させていただきました、第 1 号議案の事業報告、第 2 号議案の実行委員会収支決算について御承認いただきましたので、会則第 13 条第 3 項の規定により、本日、令和 4 年 2 月 16 日付けで、当実行委員会については解散することとなるため、併せて会則を廃止したいと考えております。

北海道実行委員会の解散及び会則の廃止についての説明は以上です。御審議のほど、よろしくお願いたします。

○ 倉本委員長

ただいまの説明に対して、御意見・御質問がございましたらお願いします。

○ 各委員

なし。

○ 倉本委員長

○ それでは、第 2 号議案についてお諮りします。御承認いただけますでしょうか。

○ 各委員

異議なし。

○ 倉本委員長

ありがとうございました。異議なしということですので、第2号議案については、原案のとおり承認とさせていただきます。

6 その他

○ 倉本委員長

次に、次第の4「その他」ですが、特に事務局から説明はないということですが、せっかくの機会でございますので、最後に、御出席の委員の皆様から一言ずつ、本大会についての御感想や、広く学校給食や食育の推進についての御意見等をいただきたいと考えております。

檜田教育長お願いいたします。

○ 檜田教育長

今回、第4回実行委員会をもって解散ということで一言御礼を申し上げたいと思います。このコロナ禍での開催、関係者の皆様の努力そして準備のおかげで、倉本委員長からもございました大会が盛会の中で行われたことに対して、敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げる次第でございます。

札幌市では、これまでも学校給食の大切さということから学校全体で共有し、すべての学校で学校給食の手引き、それから健やかな体の育成プログラム等を作成しまして、その中で食育の推進を進めてきたところでございます。今回、全国大会にも札幌市からも多くの栄養教諭等が参加させていただいて、この大会で得た知見は非常に多く、そして大変ありがたいと思っています。そうした成果をこれから札幌市の食育に是非活かして参りたいと思っています。

最後に開催にあたり、倉本教育長様はじめ本協議会の開催に、御尽力いただきました皆様に改めて感謝を申し上げますとともに、今後とも札幌市の食育あるいは学校給食の取組に対しまして変わらぬ御支援・御指導をお願いします。どうもありがとうございました。

○ 倉本委員長

高森教育長お願いいたします。

○ 高森教育長

私は、途中からの参加でしたが、今回の大会を通じて学校、家庭、地域が一体で食育を推進していくことを北海道学校給食研究協議会としましても、今後全力で取り進めていきたいと考えています。

特に私たちの街では、学校給食を活用した食育として、地元食材を使った給食メニューを考える食育教室や市民を巻き込んだ料理教室を含めて、インスタグラムで発信したり、レシピを家庭に提供することで、気軽に家庭からでも見られるようなものを高校レストランの中のキッチンスタジオ等で行い、実際に子どもたちが考えたメニューを給食に出す等の取り組みをしています。

併せて、今回の事例を踏まえて様々な研究や諸課題を解決しながら、食育を推進していくことを今後皆様とともに進めていければと思います。倉本教育長様はじめ関係者各位の皆様、大変お疲れさまでした。今後とも引き続きよろしく申し上げます。

○ 倉本委員長



千葉理事長お願いいたします。

○ 千葉理事長

集合開催からオンライン開催になり、どうなるかと大変心配しました。お願いされておりました関係企業からの協賛金については、大変苦勞しましたが、何とか御協力できたことで安堵しました。

引き続き北海道の学校給食物資の安定供給という点に視点を置いて、公益法人の立場として貢献させていただきと思いますので、今後とも御理解の程よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○ 倉本委員長

吉田会長お願いいたします。

○ 吉田会長

全国大会は参集には叶いませんでしたが、大変多くの参加者の中、盛会裏に開催されましたことを喜びたいと思います。

私は、1日目の大会行事からシンポジウムまでライフオートで参加させていただきました。学校給食の研究大会自体の参加が初めてで、地元での全国大会ということで新鮮な気持ちで参加しました。シンポジウムでは、関西出身であろう調査官が大変上手に場を盛り上げて、シンポジストの発言を引き出していたこと、その発言内容もそれぞれ示唆に富んでいて、改めて日常生活の食事と給食について考えさせられる時間でした。

学校給食会の仕事をさせてもらうようになり、山際先生には、いつも最新の情報を提供していただき、学ぶことができましたし、ある大きな会議に参加したときには、北海道産の米、小麦、乳製品等の給食の食材にどれほど北海道の優秀な、優良な物が使われていることを知ることができて、参加して良かったと思います。

また、札幌市の学校保健会という教育委員会とつながりの深い仕事もしていることから、栄養士や栄養教諭とのつながりがありますので、このような大会に参加できたことが嬉しかったし、運営に携われて感謝の気持ちで一杯です。

今後、何年後に回ってくるかわかりませんが、益々、栄養教諭の皆様のお力と食育の意義が重要視される時代になってくると思いますので、道教委が率先して頑張ってくださいと思います。ありがとうございました。

○ 倉本委員長

三浦会長お願いいたします。

○ 三浦会長

全国学校給食研究協議大会大変お疲れさまでした。私は中学校の校長をしていますので、今日のお昼もおいしい給食をいただきました。

1年間約200食、小学校6年間では、約1,200食、中学校も含めると1,800回、子どもたちは配膳から片付け、そしてみんなと楽しく食べる、これは集団昼食文化だと思います。コロナ禍で子どもたちは、黙食を行っています。給食時間、廊下を歩くと前を向いて静かに食べていて、コロナ前とは、違う風景が見られます。

学校給食は、教育現場に入った時からありますが、食物アレルギー問題であるとか給食費納入

の問題があるが、やはり給食の果たす役割は大きいのではないかと思います。

今回、全国学校給食研究協議大会のアンケートを読みますと大変好評だった記述が多かったです。

この後も本当においしい給食が子どもたちのために続くことを願っております。

○ 倉本委員長

友善会長お願いいたします。

○ 友善会長

今回の全国学校給食研究協議大会では、特別支援学校の栄養教諭研究協議会のメンバーの皆様も弁当部会等で率先してこの企画、実施に関わっていたこと、自分たちの見識を北海道のオリジナル弁当という形にできたことは、御自身の自信や子どもたちの指導にもつながっていくと強く感じています。

また、見逃し配信ということで、1ヶ月間に渡って大会後も分科会等の様子を配信し続けたことで参加された栄養教諭の皆様や学校給食関係者の皆様が、非常に多くの学びを得ることができた研究大会になったのではないかと感じています。

分科会の方では、札幌市立北翔養護学校で、北海道の特別支援学校における最先端の障がいのある子どもたちへの特別食というか、段階食の取り組みを発表しており、北海道の特別支援教育の中での食育の研究推進の新路を全国に示すことができ、特別支援学校関係者として非常に嬉しく思っています。今回の研究大会に携われた皆様、私の方からも皆様の御努力に敬意を表したいと思います。お疲れさまでございました。

○ 倉本委員長

小野寺会長お願いいたします。

○ 小野寺会長

全国の栄養教諭、栄養職員からもとても素晴らしかった、勉強になったという声をたくさんいただきました。今回の研究大会の内容を活かして、今後の食育をさらに充実していけたらと考えています。ありがとうございました。

○ 倉本委員長

中澤局長お願いいたします。

○ 中澤局長

実行委員会の皆様には、開会当日、御出席いただき、また運営にお力添え頂き、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

担当されました文科省からいくつかお話がありまして、オンライン開催と急な変更がかなりありましたが、全体を通じて円滑に運営されていたことに大変高く評価していただいております。

調査官からは、今回の大会では、全体会の内容を踏まえたシンポジウムや分科会があり、参加者の学びが深まっている構成となっていることから、非常に他県の参加者からも高い評価を得ている話がありました。

今回研究協議会では、道内から447名の参加者がいました。これはめったにない機会ですので、今後も学校給食の品を高めていくような取り組みを進めて参りたいと思います。ありがとうございました。

○ 倉本委員長

松原部長お願いいたします。

○ 松原部長

長引くコロナ禍において、初めてのリモート開催でしたが、大会が盛会裏に終わりましたのは、準備していただいたすべての皆様の大変な御苦勞のおかげだと思っています。ありがとうございます。

学校給食の食育の推進について、大会の成果とは離れてしまっていますが、一言申し上げます。御承知のとおり2月6日に大雪の影響を受け、2月7日には食材や原材料の配送に遅れが生じ、一部の学校では給食の時間を遅らせたり、メニューの一部が提供できない状況がありました。このような緊急事態でも各学校では、栄養教諭、栄養士、調理員の多くの皆様の工夫と給食を出さなければという意気込みによってほぼ通常通りの給食が提供されたことについて安堵するとともに、関係の皆様には感謝申し上げます。子どもたちにとって毎日当たり前に出てくる楽しい給食ですが、調理に携わる方は元より、食材を生産する方、運搬する方、今回は、除雪作業する方と多くの方々の努力によっておいしい給食が食べられる、そして感謝の気持ちを大切にする食育の重要性を感じました。食べ残しのない、フードロスのない学校給食の実現に向けて取り組んで参りたいと考えています。

今回、倉本委員長をはじめ事務局の皆様本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

○ 倉本委員長

委員の皆様、ありがとうございました。

コロナ禍の厳しい状況の中での開催で、皆様には御尽力いただきました。苦勞した一方で得るものも多かったのではないかと思います。また2年間程に渡りますが、コロナ禍ということで、暖かくおいしい食の提供だとか、あるいは安心できる居場所という、社会の中での学校の役割の大切さが改めて多くの方に認識されているのではないかと思います。私どもとしても、学校給食として、食育の推進をより一層しっかり取り組んで行こうと思いますので、皆様方とまた力を合わせていきたいと思っています。ありがとうございました。

それでは、本日予定している全ての議事及び協議につきましては、以上でございます。協力ありがとうございました。議長の任を解かせていただきますので、進行を事務局に戻します。

○ 泉野事務局長

倉本委員長、ありがとうございました。委員の皆様、御審議いただきまして、ありがとうございました。

また、あらためまして、委員の皆様には、昨年4月の実行委員会設立後、大会開催から本日まで、大会運営等に関しまして御支援、御協力を賜り、誠にありがとうございました。

今後とも北海道の学校給食と食育の推進のため、御指導いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

なお、実行委員会は本日付けで解散となりますが、本日の実行委員会議事録については、参考に後日送付させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして、第72回全国学校給食研究協議大会第4回実行委員会を終了させ

ていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございました。